



▲淡路人形の体験教室



▲日本総領事公邸で

また団員ら自身もオーストラリアの文化や自然を体験することができ、国際感覚を身に付ける貴重な経験となりました。

海外公演は今回が初めてで、交流団は、在パース日本国総領事公邸でのレセプションや、小中高校などを訪問。公演や体験教室を開いて、日本の伝統文化の素晴らしさを伝え、鳴りやまぬ拍手をいただきました。



▲セライナ市を訪れた派遣団の皆さん



▲豊かな自然の中で交流

それぞれ貴重な経験をし、帰国した高校生は「もう一度セライナに行きたい」「留学してみたい」と話し、将来の夢や大きな目標も見つけてきたようでした。

淡路ファームパークイングリッドの丘のシンボルとして来園者の人気を集めているコアアラ。県と友好姉妹提携を結んでいる西オーストラリア州から昭和62年と63年に4頭が親善大使として寄贈されたのを最初に、平成15年にも4頭

オーストラリアへ文化交流

が寄贈され、現在6頭のコアラが飼育されています。最初の寄贈から20年の節目を迎えたことから、市民からの感謝の意を伝え、今後の友好関係をさらに推進するため、淡路人形浄瑠璃を継承している三原中学校と南淡中学校の生徒らで「親善文化交流団」を結成。登里伸一市議会議長を団長に、総勢29人が7月30日～8月4日の6日間、西豪州を訪問しました。



▲淡路人形を説明する中学生

この夏、オーストラリアとアメリカへ、市内の中学生と高校生が海外派遣団として訪問しました。オーストラリアへは、西オーストラリア州政府からの「コアアラ寄贈20周年」の節目を記念して、感謝の意を表し、郷土芸能「淡路人形浄瑠璃」を上演。文化交流を図りました。またアメリカへは、姉妹都市のセライナ市でのホームステイを体験しながら、多くの人たちと交流を深め、国際感覚や語学力を養いました。

海外派遣団、親睦を深め帰国

オーストラリアとアメリカへ

祭りの顔

祭りで出会った顔。友達に恋人、家族、いろんな顔。多くの顔が集まるから、祭りは盛り上がります。



▲地元学生と食事を楽しむ団員



▲ホストファミリーの出迎え

アメリカでホームステイ

将来の南あわじ市を担う国際豊かな人材育成を目的に、7月23日～8月4日の13日間、市内の高校生10人が姉妹都市アメリカ・オハイオ州セライナ市を訪問しました。派遣団は、セライナ市で市長らから熱烈な歓迎を受けた後、それぞれが市内のホームステイ先に長期宿泊。初めは、硬い表情をしていた高校生たちでしたが、すぐに打ち解け、ジェスチャーを

交えながらも楽しく英語で会話をしました。日中は、セライナ市の美しい自然の中で、乗馬や水泳など様々な活動を満喫。市内の中学校や高校、観光地も訪れ、現地の若者らと親睦を深めました。

それぞれ貴重な経験をし、帰国した高校生は「もう一度セライナに行きたい」「留学してみたい」と話し、将来の夢や大きな目標も見つけてきたようでした。



▲(左)慶野松原の花火 (右)花火を待つ人々を夕陽が照らす

浜辺に陣取って過ごす、夏の夜

夏の暑さは増すばかり。しかし、暑い季節だからこそできるものがある。慶野松原と福良湾で行われた市民まつりをご紹介します。



▲福良湾の花火(なないろ館)

◀力自慢が前に立ち、大綱を曳きます

大綱曳(福良)

西方勝利、今年は豊漁の年。数百年前からの伝承で、西が勝つと「豊漁」、東が勝つと「豊作」となります。300mの大綱に細い綱をくくりつけ、約3,000人が綱を引っ張りました。

▼盆おどり、福良の街中を練り歩きます

